

第三部採点上の留意点並びに方向

◎種目の概要

マット	1 m 5 0 c m × 1 5 m (ロングマット 2 枚とショートマット 1 枚) のマット上で、自分のできる運動を数種目自由に組み合わせて、それぞれの運動のつなぎを工夫し、スムーズに演技できるように実施する。演技時間は 6 0 秒以内とする。 ※伴奏音楽は使用しない。
とび箱	男女とも高さ 1 m、長さ 1 m のとび箱を使用し、男子は縦、女子は横にして自分のできる運動を実施する。 ※ロイター板はバネ式を使用することができる。
低鉄棒	自分のできる運動を数種目自由に組み合わせて、それぞれの運動のつなぎを工夫してスムーズに演技できるように実施する。 鉄棒の高さ：男女とも 1 m 6 0 c m マットの高さ：1 2 c m

(実施要項抜粋)

◎採点の基本方針

1 演技の原則

- (1) 演技の内容は選手の能力に相応していなければならない。
- (2) 演技は理にかなったやり方で、美しくのびのびと実施されなければならない。

2 留意点

第三部の採点に関しては、上記を踏まえ体操としての基本的事項がしっかりとらえられているか否かを見極めなければならない。また、小学校体育との関りを考慮し教育的配慮を十分に行う必要がある。よって、次の三点について特に留意することが望ましい。

- (1) 運動の難しさを要求することなく、演技が美しくのびのびと正しく行われているか、その演技実施の習熟度を評価する。
- (2) マット、鉄棒においては価値部分の要求を満たしている限り、出来映えに関わらず点数の下限を 6. 0 0 に置くこととする。
- (3) 演技の中の良い部分に対しては、積極的に加点する。

◎演技の採点

1 マット・鉄棒に関して

- (1) 演技は次の要素によって構成する。

a) 価値部分	6. 0 0
b) 演技実施	3. 0 0
c) 加 点	1. 0 0

可能な最高得点 1 0. 0 0

- (2) 価値部分の要求

演技は 6 つの価値部分 (1 つの価値部分につき $1. 0 0 \times 6$ 部分 = 6. 0 0) で構成する。価値部分の不足に対する減点は 1 部分につき 1. 0 0 とする。同一技は 2 回 (1 回の繰り返し) まで価値部分として認めるが、3 回以上実施された場合は 3 回目からは認めない。ただし、繰り返しに対する減点はしない。

- (3) 演技実施の欠点と減点

小欠点	0. 1 0
中欠点	0. 2 0
大欠点 (落下、転倒等)	0. 3 0

ア 減点は 1 項目について最大 0. 3 0 までとする。

イ 鉄棒の中間振動は、美しい姿勢で正しい技捌きから行われた場合は減点しない。

ウ マットは、マット上で実施した演技を採点する。助走についてはマット外から行うことができる。

エ 演技時間が 6 0 秒を超えた場合は 0. 1 0 の減点をする。ただし、合図はしない。

(4) 加点

優れた実施に対して1.00まで加点することができる。

ア	様々な要素の美しい姿勢や表現 つま先、膝、腕や頭の保ち方、体線等	各々+0.20まで
イ	技や組み合わせの正しい実施	各々+0.20まで
ウ	のびのびとした勢いのある実施	各々+0.20まで
エ	着地が止まった場合(鉄棒)	+0.20

(5) その他

鉄棒の上りでロイター板を使用することができる。

2 とび箱の採点

(1) すべてのとび方の基礎点を9.50とする。

(2) 試技は1回とする。ただし、とび箱を越せなかった場合に限り2回までやり直すことができる。2回目のやり直しに対しては0.30の減点をする。

(3) 切り返し系の技の着手局面において肩と足首を結ぶ線が水平に満たない場合は0.30までの減点をする。

(4) 加点

ア	美しい実施	+0.30まで
イ	勢いのある元気のいい実施	+0.30まで
ウ	突き手の効いた大きな跳越	+0.30まで
エ	着地が止まった場合	+0.20

(5) その他

足からの着地が認められない場合、0点ではなく相応の減点で対応する。

4 補足

(1) この適用規則に記述されていない事項に関しては、現行の(公財)日本体操協会制定採点規則に準ずる。

(2) 0.05採点はしない。

◎参考資料(運動の内容)

マット 前転 伸膝前転 開脚前転 倒立前転 跳び前転 後転 伸膝後転 開脚後転
後転倒立 前方倒立回転(前方ブリッジ) 後方倒立回転(後方ブリッジ)
側方倒立回転(側転) 前転とび 後転とび 頭はねおき 首はねおき ロンダート
跳躍技 波動系の技 姿勢保持系の技(片足水平立ち) 等
※つなぎに独自の工夫があり、流れがスムーズであること。特に、女子の場合は、ダンス系の要素を組み合わせ、リズムカルな変化を持たせることが望ましい。

とび箱 きりかえし技 : 開脚跳び(腕立て開脚跳び) かかえ込み跳び(腕立て閉脚跳び)
回転系の技 : 前転とび 等

鉄棒 逆上がり 膝かけ上がり ももかけ上がり け上がり 背面逆上がり 前方支持回転
後方支持回転 前方膝かけ回転 後方膝かけ回転 後方浮き支持回転(ともえ)
とびこしおり 棒下振り出しおり(振りとび)
足うら支持(開脚、閉脚)から棒下振り出しおり 等